

## 関係附属機関等における主な意見について②

### 1 福祉のまちづくり推進会議（部会）（令和6年11月7日）における意見

- ①他の条例についての資料等を見ても内容が分かりづらいことが多いが、本条例については市民ワークショップを開催したり、パネル展でイラストを活用するなど、とても丁寧に分かりやすくしていただいたと思う。一点だけ、定義について、「包摂性」という言葉が難しいと感じた。
- ②子どもへの取組というのはとても重要と考えている。現在フリースクールを運営しているが、不登校児童への支援などの運営に障がいのある方にも関わっていただくような取組を最近始めた。こういった取組に対してハレーションやご意見を頂くこともあったが、実際にやってみないと両者の意見を聞くことはできない。
- ③小学生以上だけでなく、未就学児への働きかけも重要だと思う。美術に関する親子参加型のワークショップなどを行うことがあるが、親も含めた理解などに大変適していると思う。是非未就学児への働きかけなども進めてほしい。
- ④教育における進め方として、まずは人としてどう行動するべきかが重要。教育委員会とは密に連携していただきたい。また、一過性のものではなく継続した取組となるよう進めてほしい。
- ⑤個別の取組は様々進められているが、横串を刺して連携していくことが重要。どうしても行政は縦割りになりがちだが、条例に記載しているような枠組みを活用し、事業間の整合性や効果検証についてしっかりと進めてほしい。

### 2 子どもの権利委員会（令和6年11月19日）における意見

- ①条例素案の基本的施策①（誰もが安全で安心な生活ができる多様性に配慮した施設等の整備）について、個人起点で考えると「安全」、「安心」の順ではなく、先に「安心」がくるべきだと思う。
- ②基本理念②（誰もが、互いに理解し合い、支え合い、及び助け合うことで、社会から孤立することなく安心して生活できること）の設定理由の中の「当事者が抱える生きづらさを社会全体で解決していく」という表現に違和感がある。生きづらさは感情や考え方になるため、「解決」というよりも「取り除く」といった表現の方が良いのでは。
- ③生きづらさという点で、今の子ども達が社会に出た時、今のままでは生きづらい世の中なのかなと感じている。子どもの居場所づくりも大事だが、生きづらさとは何なのか、解決には何が必要なのかを皆で考えることができる機会があれば良いと思う。
- ④理念は大事で、その理念に近づくために施策を粘り強く進めていくことが重要だと思う。
- ⑤委員会の具体の構成等については、市長規則ではなく条例で規定すべきであると考えている。また、子どもも委員会の委員に含めてほしい。

### 3 その他の意見

#### (1) 札幌西高校の生徒との意見交換（令和6年11月21日）における意見

- ①世の中には自分の個性や特徴を言いたくない人もいるので、その人に無理やり話を聞くのではなく、気付いてあげることが大切。
- ②まだまだ市民の中には自治体等の施策ばかりを待ち、自分自身の意識を変えていない人が多いと感じているので、基本理念③（市、市民及び事業者が、それぞれの責務や役割を相互に認識し、連携・協働して取り組むこと）にすごく共感した。
- ③「誰もが」という部分について、障がいもなく、性的マイノリティなどでもない人たちにも当事者感が持てるような文言を明記しても良いと思う。多くの人にとって「バリア」は障がいのある方のものとして捉えられていると感じるし、「誰もが」という文言はありきたりすぎると思う。
- ④今までの歴史においても必ず理念自体がずれて無意味な結果になっている例は多々あると思う。そのため、理念として振り返るべき「よりどころ」として形に残すことは必要。今は、この考え方が常識として、それこそ普遍的な「当たり前」ではないからこそ、この考えや思いが「当たり前」になる日までこの条例は必要だと感じた。是非制定してほしい。
- ⑤条例に関して、「含まれない人」がいないことが従来のユニバーサルの考え方との違いだと感じた。これからの札幌にとって、とても重要なポイントだと思ったので、条例の理念から絶対に外さないでほしい。



#### (2) 札幌開成中等教育学校の生徒との意見交換（令和6年11月27日）における意見

- ①人々が互いに認め合い共生社会を実現するためのバリアとしては、どうしても人の感情が関わってくると思う。個性や能力があるからこそ感情的な対立が生まれる。この感情というバリアをどのように乗り越え、互いを認め合う社会をつくるかという点が施策においても大切になると思う。
- ②多様性と包摂性が強みとなる社会という視点はとても良いと思った。ただ取り組むだけでなく、生かそうとすることがすごい。確かにそこまでいけると本当に共生できていると思う。実現に向けて頑張ってもらいたい。私も何かで参画してみたい。
- ③性別や国による差別はまだ消えていない部分があるので、先入観を持たないこ



- とが大切だと思う。条例ができたからといって何が変わるんだという意見もあるかもしれないが、条例はそのまちの意識を形作る意味のあるものだと思う。
- ④性的マイノリティは高齢者や障がい者よりも共感や納得が難しい話題だと感じる。多様性を認めないという多様性もあるため、どのようにそこを埋めるのが気になった。多様性＝何でもOKではない。
- ⑤多様性という言葉はもうほとんどの人が知っていると思うが、それらを包摂し、社会全体で捉えるという部分は目を向けたことのない人が多い気がする。包摂性と多様性の両立という目的をより積極的に発信していくことで、条例を見る人の意識も変わると思う。

### (3) 札幌市立大学の学生との意見交換（令和6年11月29日）における意見

- ①こういった条例を掲げることは大切だと思う。今の時代お互いを知らなすぎることで障壁を生み出しているのではないかと感じる。交流する場や機会が設けられると良いと思った。そもそも個人に余裕がないと共生していこうという気持ちにならない。条例をどのように広めるかも重要。
- ②「誰もが当事者」で誰も孤立させない条例はとても良いと思う。この条例がどの年代の人にも外国人にも浸透していけるようにしてほしい。
- ③条例を作ることはとても良い。しかし、より大切なのはこの条例を市民に知らせることだと思う。皆が知ることで条例の力を十分に発揮できると思うので、条例の内容をより多くの人に知ってもらうようにできると良い。
- ④条例の内容がどんな人にも対応できるように細やかに考えられていると感じ、実現してほしいと思った。
- ⑤孤立を「つながる手段がない状態」とし、つながりたいと思わない人に選択肢があるというのがとても良いと思った。皆が互いを認めて、知って、つながる社会が理想であると考えがちだが、それを目指さない人もいることを考慮した上で、様々な視点からの共生を捉えていく必要があると感じた。



※本資料掲載の意見は、主なものを抜粋の上、事務局で要約し掲載しています。また、上記1・2の附属機関における質疑の全文は、順次札幌市公式ホームページに掲載予定です。